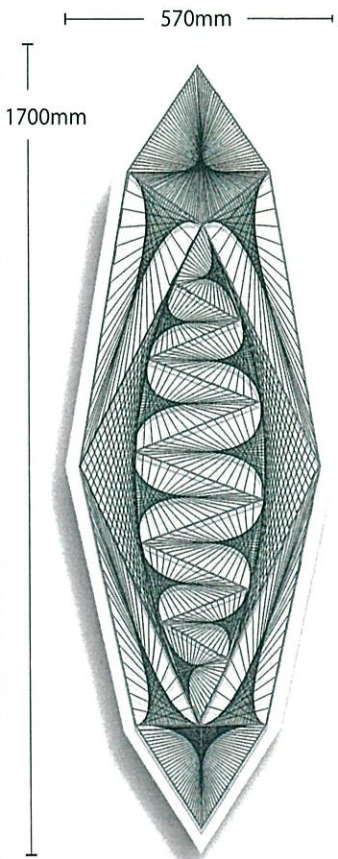


「台座置き」もしくは、「壁付」を選んで、チェックをつけてください

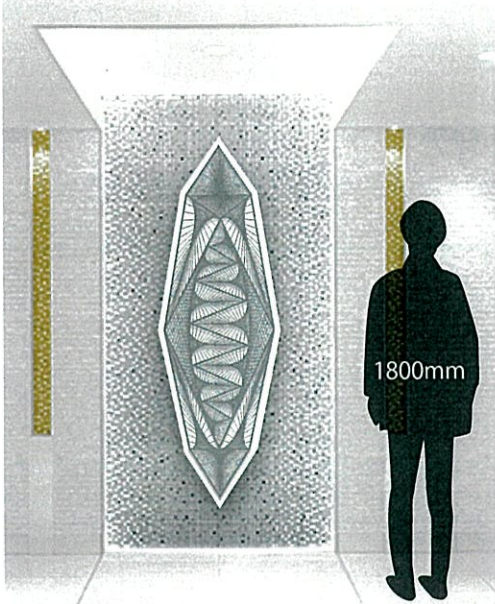
台座置き       壁付

作品設置イメージ



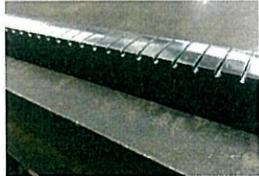

570mm

1700mm



1800mm

作品設置イメージ

「構造の表象」は、鉄板とステンレスのワイヤーによって構成された彫刻です。

- 工法としては、白いベースの鉄板の上に、3.2mm厚の鉄板をレーザーカッターによって線状に切り出したもの(上図の太い線)を配置し、さらにその軸に沿ってリベットを等間隔に打っていき、そこにステンレスのワイヤ(上図の細い線)を結びつけます。
- 背面部にはL字状の金具、もしくはもっと角度のきついものを取り付け、壁面にひっかけられるようにする。壁側にも受けとなる金具を設けます。

レーザーカッターで加工した過去作のディテール。0.1mm単位で正確なデータを切り出せる。これにより軸となる線状の板を出力し、正確なベースを作る。

リベットを使用した過去作のディテール。2φの穴を開けたところにリベットを打つ。リベットはなるべく頭が小さいものを使う。

作品名	構造の表象			作品NO.	18
素材	鉄、ステンレスワイヤー			想定重量	25 kg
サイズ	横幅 570	×	高さ 1700	×	奥行 50 (単位:mm)
作品コンセプト					

建築に芸術が関わるといふことを考える。

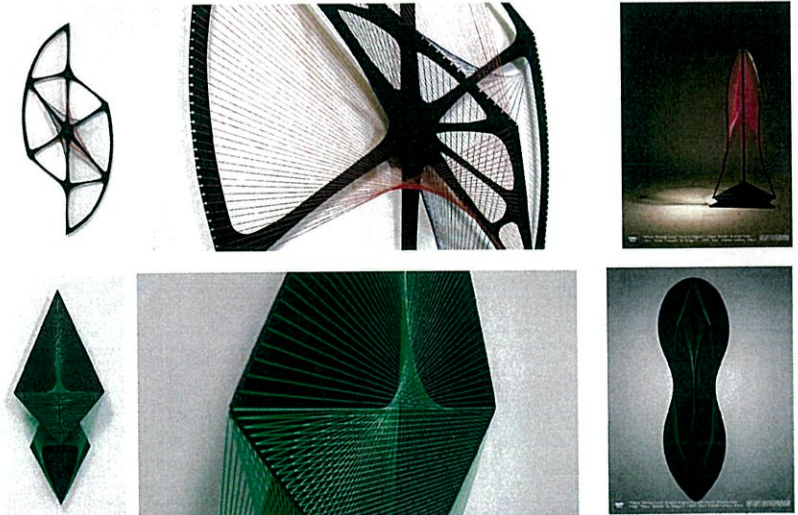
物理的に存在する物であれば、いずれもなんらかの構造を以ってそこに在る。その構造は近代の工業化や効率化の中で、様々に形を変えてきた。例えば、橋を支えるトラス構造はより軽量でより強くなるよう効率化され、変化してきた。しかし、私はそのミニマムな見た目の中にとても多くの言語外のメッセージを詰め込んでいるように感じる。その構造は橋を支えることによって街と関わっているように見えて、視覚効果によっても人に影響している。

そんな「構造」それ自体は、芸術になる夢を見たりはしないだろうか。

私はそんな思いから、構造を賛美すべく構造から法則を導き出し、さらに構造をつくる。そしてそれらは美的要素によってのみ社会と関わり、「構造」が見た(かもしれない)夢を現実のものとする。建築の外的側面から発した物が芸術を通して建築の内部に還元される。今回はそんな夢を実現させられたらと思う。

【過去の自分の作品】 ※画像や写真等を配置もしくは貼り付けてください

糸を使った彫刻作品シリーズ「夜」2011-2016 素材:鉄、ナイロン糸、ステンレスワイヤー



法則性や連続性を、普遍的かつ美的な性質と捉えた上で、そこにどう自分の恣意性を織り込めるかを考えて制作している。橋や屋根の構造に用いられるトラス構造、黄金比、デジタルとアナログ、動脈と静脈など、その都度毎にアクセスするイメージは変わるが、それぞれの作品を制作している最中に得たイメージが互いに影響し合っている。